

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901597		
法人名	医療法人社団春光台クリニック		
事業所名	春光台クリニック グループホーム		
所在地	旭川市春光台3条3丁目5番32号 (電話) 0166-46-8806		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年11月7日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旭川郊外の、すぐそばに大きな公園が広がる、自然豊かな住宅地に位置する。広い敷地には手入れの行き届いた菜園や花畑があり、収穫物は食卓を賑わせる。玄関を中心に2つのユニットが左右対称に配置された間取りで、中は見通しがよく明るく開放的で、居間の大きな窓からは公園の緑や、遠くの山々の雄大な風景が見渡せる。運営母体が医療機関で、デイケアも併設しており、医療やリハビリテーションでの強い連携で、利用者や家族の信頼のよりどころとなっている。町内会、保育園との交流やホーム行事への地域ぐるみの参加など、地域とのつながりは親密である。管理者はじめ、職員は明るく、笑い声が絶えず、利用者は生き生きと生活を楽しんでいる様子が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	理念を新しく作り変え、評価の活用を積極的に進め、運営推進会議でも評価を取り上げ、家族アンケートを実施し、アセスメントにセンター方式を取り入れるなどの改善が行われ、その他の課題にも、積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価は全職員に趣旨を説明して配布し、記入したものを集めてカンファレンスで討議しながら作り上げた。理念の改定や家族アンケートの実施など、いくつかの課題で改善につなげている。職員それぞれも日ごろのケアの見直し、反省の機会として、前向きに受け止め、有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、市民委員会会長、民生委員、保育園園長、近隣グループホームのケアマネジャー、家族、利用者、職員を主要メンバーとし、グループホームの紹介、活動内容、利用者の生活状態、行事、自己および外部評価、避難訓練などを議題に話し合っている。地域包括支援センターおよび行政関係者の協力は得られていない。行方不明者が出た場合の対応策、行事の計画策定などで会議の討論が役立てられている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族とは日常的に交流を図り、積極的に意向を聞きだしている。年に2回の定期的な家族会を開いており、多くの家族の参加を得ている。利用者も交えた交流の場とするとともに、家族のみによる話し合いの時間も設け、自由な意見表明の場を提供している。ここでは家族アンケートも実施し、忌憚のない意見を受けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入して、敬老会、夏祭り、廃品回収などの行事・活動に参加し、近くの公民館では文化祭に参加したり本を借り出したりしている。また近くの保育園とはお互いに訪問しあう関係になっている。今年ホームが実施した夏祭りには、地域住民も引き、出店、ステージ出し物、よさこいソーラン踊りなどを催し、170名の参加者が集まって、大きな交流の場となった。

【情報提供票より】 (20年 10月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 11人, 非常勤 10人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	光熱・日用品費 20,000円 暖房費 (10-4月) 5,000円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 250 円
	夕食	550 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	3 名	要介護 2	6 名
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢 平均	83.7 歳	最低	71 歳
		最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団春光台クリニック
---------	----------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が参加して、事業所独自の新しい運営理念を作り上げた。楽しく明るく、ゆったりと安らげる毎日を過ごし、家族や地域と触れ合うなかで一人ひとりが自分の生活を大切にできるように、との内容である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が参加して最近作り上げたものなので、よく理解され、実践の中に活かされている。玄関に掲示されるとともに、プリントが全職員に配布されている。カンファレンスの折などには必要に応じて参照されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、敬老会、夏祭り、廃品回収などの行事・活動に参加し、近くの公民館では文化祭に参加したり本を借り出したりしている。また近くの保育園とはお互いに訪問しあう関係になっている。今年ホームが実施した夏祭りには、170名の地域住民が集まって、大きな交流の場となった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が記入に参加し、討議しながら作り上げた。自己および外部評価は、理念の改定や家族アンケートの実施など、いくつかの課題で改善につなげている。職員それぞれも日ごろのケアの見直しの機会として、前向きに受け止め、有効に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの紹介、利用者の生活状況、行事、自己・外部評価、避難訓練などを議題に話し合っている。地域包括支援センターや行政関係者の協力は得られていない。行方不明者への対応策、行事計画などで会議の討論が役立てられている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの情報は把握し、必要に応じて連絡や相談を行っており、ケアに反映させている。市が主催する研修会には積極的に参加している。相談ごとは基本的には地域包括支援センターが窓口になっているので、市との連携は限られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の家族通信、「ほほえみ」で、行事などホーム全体の活動の様子に加えて、一人ひとりの利用者の生活ぶりを個別に写真を交えて伝えている。年2回の家族会で職員の紹介や利用者の普段の様子を詳しく伝えている。金銭管理は毎月報告している。	○	職員の異動については、年2回の家族会議を待たず、その都度家族に報告することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の定期的な家族会を開いており、多くの家族の参加を得ている。利用者も交えた交流の場とするとともに、家族のみによる話し合いの時間も設け、自由な意見表明の場を提供している。ここでは家族アンケートも実施し、忌憚のない意見を受けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどない状態に抑えられている。退職のときはお別れ会を開いて、気持ちの整理ができて不穏が残らないように配慮している。新しい職員に対しては、管理者が適切な指導を行うことによって利用者との関係形成に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回カンファレンスの場で定期的な内部研修を行って、職員のスキルアップに努めている。系列のデイケアセンターの作業療法士がスーパーバイザーとして指導に当たるなど、母体医療機関の支援・協力の下に実施されている。外部研修は職員の経歴と希望に応じて計画的に行っている。	○	さらに、職員個々の経歴に応じた育成プログラムを作成したいとの意向なので、その取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟はしていないが研修会など交流の場には参加している。また、運営推進会議のメンバーに近隣のグループホームのケアマネジャーが加わって交流している。その他近隣の懇意の同業者と情報交換したり職員も交えて相互訪問して交流する機会が随時にもたれている。	○	つながりをさらに組織的なネットワークにまで高め、恒常的な交流ができるよう、また、それを活かした取り組みに発展させるよう、いっそうの工夫と努力を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず家族と本人がホームを見学して、しばらくの時間を職員や他の利用者とともに過ごして、雰囲気を感じてもらっている。入居当初の馴染むまでの期間は、職員が緊密につき添い、家族に頻繁に訪ねてもらって不安を取り除く、などの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理、畑仕事、家事などを利用者とともに行う中で、その方法や習慣の違いなど、多くの知恵を学んでいる。利用者との喜怒哀楽を共にすることを重視し、時には職員が自己主張するなどして、素直な感情表現で、利用者との心の通じ合う関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を採用することによって、従来とは違う、真に利用者の立場に立った見方ができるようになった。意向表現の困難な利用者には、しぐさや物を使った表現、旧姓を使った問いかけなどにより、気持ちを引き出すように工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時は、本人、家族と面談を行い1週間程の暫定的な介護計画を作成し、その後、ミニカンファレンスで職員の意見を聞いて正式な介護計画を作成している。今年の5月からセンター方式を採用し、利用者が困っている事などを聞いて利用者中心の介護計画を作成して、家族に説明し確認を得ている。	○	今までも、家族と一緒に利用者のいる場所で介護計画の説明を行っているが、意識的に利用者に対する説明は行っていない現状なので、今後は、利用者に対してどのように説明するか検討し、利用者本人にも介護計画を説明する事を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月毎の見直しを行っている。骨折や入院など身体面での変化や、認知レベルの低下、薬の変更など利用者の状況に応じて、ミニカンファレンスで話し合いを行い、その都度計画の変更や追加を行い、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、日々の健康チェックや医療相談を行っている。点滴に毎日送迎したり、事業所での点滴対応など医療連携体制を活かした入院回避を行っている。かかりつけ医への受診にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の受診が可能であることを伝え、希望の医療機関を選んで貰っているが、現在、利用者と家族は当ホーム母体のクリニックを選択している。眼科、整形外科、皮膚科、耳鼻科などは、利用者と家族の希望でかかりつけ医に継続受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人、家族に重度化や終末期について説明を行っているが、書面での確認はしていない。事業所の設備面の問題から、特別養護老人ホームや老人保健施設への入居の説明も行っている。	○	家族会などを利用して認知症の理解を深めて貰い、重度化や終末期に関しての話し合いの場を設け、家族の意見を聞きながら方針を決めて書類の作成を行って行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報書類は、事務所に施錠して保管している。日常的に記録する書類は、厨房のカウンターに整理して置いているが、開いた状態にしないように指導は徹底している。一人ひとりの尊厳を大切にして、否定するような言葉かけはしないように指導を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているが、利用者一人ひとりのペースを大切にして柔軟に対応している。買い物やドライブ、畑仕事の希望がある時は、状況に応じて、その都度適切な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、利用者と相談しながら担当職員が決めている。利用者と一緒に野菜を育てて収穫して食材に利用し、季節感のある食事を提供している。献立は、重複しないように記録し、調理マニュアルを作成してバランスの良い献立になるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前中から入浴は可能になっており、ひとり週2回を目標に入浴して貰っている。自分で着脱が可能な利用者には、時間がかかる事もあるが、利用者の意欲を尊重して充分時間を取って入浴して貰っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物や縫い物、パズル、畑仕事や家事など、それぞれの利用者の得意な事や楽しみ事を行う事で張り合いのある日々を過ごせるように配慮している。母体クリニック職員の理学療法士が、風船バレーや歌などのレクリエーションを行い、利用者は楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、散歩や買い物などを楽しんでいる。利用者はドライブを好んでいるので、気分転換のためにも希望に合わせて出かけている。冬季は大型ショッピングセンターに出かけたり、受診帰りに外食をするなど、利用者に合わせて支援を柔軟に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠する事なく、利用者が外出した時は一緒について行き、安全面に配慮している。帰宅願望が強い時は、玄関に座ってゆっくり話をしたり、外出したがる人には、熱中できる物などで働きかけて突然の外出がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回日中、夜間の両方をを想定して防災設備会社の指導のもと避難訓練、消火訓練などを利用者と共に行っている。	○	現在は、近隣への災害時の協力がまだ得られていないので、運営推進会議を通して協力を呼びかけて、地域との協力体制が整う事を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事、水分の摂取量を記録して一人ひとりの摂取状況を把握している。利用者の状況に合わせて、きざみ食やミキサー食、おかゆなど個別に対応し、食事の量も一人ひとりの体調に合わせて調節を行っている。	○	病院の管理栄養士の栄養アドバイスを受けているが、現在は定期的に行われていないので、今後は、定期的な栄養指導を受けられるような努力を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを感じる広々とした居間に、食卓テーブルと応接セットがあり、大きな窓から季節を感じながら、利用者が落ち着いてゆったりと過ごせるようになっている。天窓からは、自然光がそそぎ、開放感が感じられる。玄関や居間には、観葉植物や装飾で季節感を感じるような配慮がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれていて、それぞれの利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。室内は、利用者と職員と一緒に整理したり、手作りの品を飾ったりして個性のある居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。